

新潟県立植物園

植物園だより

観賞温室第2室 企画展示

- 9月10日(水)～11月16日(日)
「ハーブ展」
・第1部:9月10日(水)～10月13日(月・祝)
「つかう植物 -料理やティー、クラフトのハーブ」
・第2部:10月15日(水)～11月16日(日)
「香る植物 -香りを楽しむハーブ」
- 11月19日(水)～12月26日(金)
「クリスマス展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 9月10日(水)～9月28日(日)
「折紙 花と物語」
出展:はまなす
- 9月30日(火)～10月13日(月・祝)
「レカンフラワー* 季節の花たち」
出展:花はなくらぶ ※立体的なドライフラワー
- 10月15日(水)～11月3日(月・祝)
「植物園に集うアーティスト展」
出展:県内アーティスト
- 11月5日(水)～11月24日(月・祝)
「ハーブアラカルト」
出展:NPO法人ジャパンハーブソサエティ

特別展示

- 10月7日(火)～11月3日(月・祝)
「大文字草展」
展示協力:石塚萬花園
- 11月5日(水)～11月16日(日)
「新潟県花いっぱいコンクール入賞団体写真展」
出展:あしたの新潟県を創る運動協会
- 11月上旬
「キク展」
出展:田辺政一
- 11月22日(土)～11月24日(月・祝)
「新潟県華道連盟 下越・佐渡地区展」
出展:新潟県華道連盟

●観賞温室利用案内

開館/9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)
小中学生100円 ※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(● 休館日)

10							11							12						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4	・	・	・	・	・	・	1	・	1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30	31	・	23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31	・	・	・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
JR/信越線古津駅から徒歩約25分
バス/区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分

温室入館無料デー

11月29日(土)、30日(日)

当園は平成10年12月1日に開園し、この12月で開園16周年を迎えます。皆様からの日頃のご愛顧に感謝し、この2日間に限り、どなたでも温室入館料が無料になります。

クリスマス夜間開園

温室開館時間を19:30まで延長(入館締切19:00)

12月20日(土)・21日(日)・22日(月) 23日(火・祝)・24日(水)

花と緑の教室

※会場(または集合場所)
「花と緑の情報センター2階 研修室」
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 10月5日(日)13:30～15:30
「植物画教室」
講師:ショーン・テイラー/定員:10名/参加費:1300円
- 10月9日(木)10:00～11:30
「植物園花散歩⑥」
講師:田中良明(当園職員・樹木医)/定員:15名/参加費:300円
- 10月12日(日)13:30～15:00
「植物学講座『現代のプラントハンティング
～自生地から植物園へ～』」
講師:倉重祐二(当園副園長)/定員:30名/参加費:300円
- 10月19日(日)10:00～11:30
「ハーブで染めるスカーフ」
講師:難波真寿美
(上級ハーブインストラクター・スパイスコーディネーターマスター)
定員:15名/参加費:1800円(温室入館券付き)
- 10月19日(日)13:30～15:00
「親子教室『カボチャをつかった
ハロウィンスイーツづくり』」
講師:植物園友の会/定員:10組/参加費:300円



富樫信平画S57.11.03 新潟県荒川町(現村上市)産

クサギ

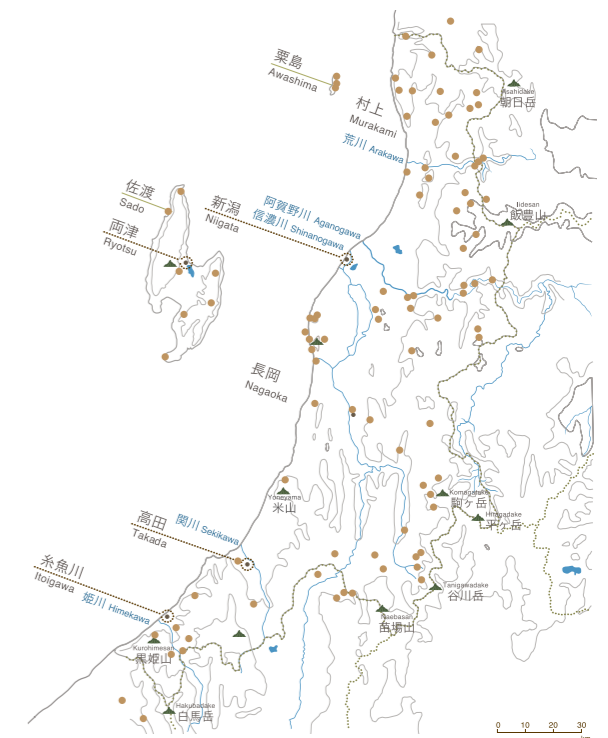
Clerodendron trichotomum
(クマツヅラ科)

日本全域、朝鮮半島、中国、台湾に分布する。
葉にはクサギ(臭木)の名の由来となった悪臭があるが、若葉をさっと湯がいて山菜として食べる地方がある。

8～9月に枝の先につく花にはよい香りがある。花冠の基部は筒となり、先は5裂する。花冠は白色で赤いがくとの組み合わせは美しく、よく目立つ。

果実は碧(あお)色に熟し、やはり赤いがくの上に乗っているようすが美しい。果実、がくともに染色に利用される。

解説:富樫信平(抜粋)



新潟県植物分布図集第2集より転載



ハーブ展

観賞温室第2室 企画展示

平成26年9|10(水)ー10|13(月祝)

つかう植物 料理やティー、クラフトのハーブ

平成26年10|15(水)ー11|16(日)

香る植物 香りを楽しむハーブ

秋の企画展示のテーマは「ハーブ」です。古くから人間の生活に寄り添ってきたハーブは、料理やティー、クラフトや香料など用途もさまざまです。よく知られているハーブから、「これもハーブなの?」という意外なものまで多様なハーブを展示。歴史や利用方法なども紹介します。

メイン会場ではハーブガーデンを創出し、第1部は葉色の変ったカラーリーフや季節の草花、第2部はバラと組み合わせ、彩りと香りを感じられる展示となります。香りのあるハーブは触れやすい位置に展示しますのでぜひ香りを楽しんでください。会場にはハーブのかぎ分けクイズもあります。

また、関連イベントとして、花と緑の教室「ハーブで染めるスカーフ」(詳しくは裏面をご覧ください)、ハーブティーの試飲会(10月5日、11月8・9日 13:00~15:00)などを予定しています。

この機会にハーブに親しんでみませんか?ご来場をお待ちしております。



レモンバーム



ゴールデンタイム



料理に使うハーブをつり下げたキッチンローブ



昨年度のクリスマス展

クリスマス展

観賞温室第2室 企画展示

平成26年11|19(水)ー12|26(金)

今年の冬は白を基調にクリスマスカラーに彩られた植物園をお楽しみください。クリスマスといえば赤、緑、白などが代表的な色です。今回の展示ではさまざまな植物に装飾とイルミネーションを組み合わせ、クリスマスらしい空間を演出します。美しく飾られた植物は見るものに感動と力を与えてくれます、特に冬のポインセチアの赤い色は華やかさとエネルギーを感じさせてくれます。

11月29日(土)、30日(日)の2日間は植物園開園記念日として観賞温室入館が無料です。また、クリスマス本番の12月20日(土)から24日(水)までは、19時30分迄夜間開園を行います。イルミネーションに飾られた夜の観賞温室では、光と冬の植物の組み合わせによる装飾をお楽しみいただけます。ご家族でごゆっくりお過ごしください。



昨年度のクリスマスコンサート

園内ウォッチング

温室●ヒョウタンノキの面白さ

巨大な果実や結実の仕方等、ユニークな姿で私たちを楽しませてくれるヒョウタンノキ(*Crescentia cujete*)。

その一番の特徴は、幹から蕾を直接出すところ。温帯の樹木は夏に花芽ができて、冬を越して春に咲くものが多いのですが、熱帯植物の中には花芽ができてから長く休眠するものがあります。その間に葉が落ち、幹が太って花芽がうずもれてしまい、直接幹から蕾や花がついているように見えます。これを幹生花(かんせいけ)と言い、ヒョウタンノキを観察していると良くわかります。

幹に直接ボツリと現れたヒョウタンノキの蕾は、ある朝徐々に開き始め、夜に開ききると臭いにおいを出して虫を誘います。花の真ん中には、ハサミのように先端部が2つに割れた雌しべがあります。その先端部に花粉がついて受粉が成功すると、ハサミは閉じていきます。受精が成功すると、その後どんどん実が太り、果実は直径30cmにも!!現地では殻(かたくなった果皮)は、食器や楽器に使用するそうです。幹から直接巨大な実がなっている様は熱帯ならではの。是非一度ご覧ください。(更科由紀)



2つに割れた雌しべの先



受粉して3時間程で閉じていた



1ヶ月で20cmを超えた

園内ウォッチング

園地●アオダモの仲間

アオダモはモクセイ科の落葉樹です。あまり馴染みのない樹木かもしれませんが、「イチローが使っている野球のバットの木」というとご存知の方もいらっしゃるかもしれません。

日本では北海道~九州、国外では南千島や朝鮮半島に自生します。アオダモの「アオ」の由来は、枝を水に浸けてしばらくすると水が青い蛍光色になることや、青い染料に利用されたことによるといわれます。葉は3~7枚の小葉からなり、春に白い花を咲かせます。ブナのように特に新緑の葉や樹形が美しいため、庭木などにも利用されます。

植物園には、アオダモの他に県内の山地で良く見かけるマルバアオダモや、かつて県内で稲を干す稲架木(はざぎ)として利用したトネリコ、葉裏の脈上に毛が多いケアオダモ、谷筋の湿地に生え、小葉の付け根に赤褐色の毛をもつヤチダモが植栽されており、葉の形や樹形にもそれぞれ特徴があり観察しても面白いものです。

トネリコの仲間は北半球に広く分布し、材が固いため、家具などに良く利用されます。ホワイト・アッシュ(*Fraxinus americana*)はアメリカに分布し、ギターなどに使われますし、北欧神話に登場する世界を支える木「ユグドラシル」はセイヨウトネリコ(*F. excelsior*)がモデルになっているなど、西洋の人々にはなじみの深い樹木です。(久原 泰雅)



アオダモ



ケアオダモ



マルバアオダモ



トネリコ



ヤチダモ

NEWS 1

公開講演会 「伝統園芸植物の保全とナショナルコレクション」

日本独自の文化が発展した江戸時代、人々は野山に生える植物を改良し、世界にも類を見ない多様な園芸品種をつくりだしました。これらの植物は国内のみならず、世界各地に広まり、現在においても人々の生活に楽しみと潤いを与えています。しかし、その起源や多様化の過程はほとんど知られていないのが現状です。

今回の公開講演会は、(公社)日本植物園協会の植物研究会の一環として行われるもので、第一線で活躍する伝統園芸植物の研究者をお招きし、江戸時代の園芸を代表する桜草、花菖蒲、ツツジについて、DNA研究等にもとづいた最新の科学で起源や形質の多様化の秘密に迫ります。また、貴重な園芸植物を保全するための日本植物園協会の保全ネットワーク「ナショナルコレクション構想」の取り組みを紹介します。

(倉重祐二)

10月16日(木)
会場:花と緑の情報センター2階研修室
(事前申込み不要・先着60名)
13:00~16:45
「江戸が育てた桜草,科学の目で見たサクラソウ園芸史」
大澤 良(筑波大学教授)
「古典園芸植物の花菖蒲,その起源となったノハナショウブの文化財、遺伝資源としての保存」
田淵俊人(玉川大学教授)
「世界に誇る日本のツツジ 遺伝資源の評価と活用」
小林伸雄(島根大学教授)
「園芸植物を守るナショナルコレクションの構築を目指して」
倉重祐二(新潟県立植物園副園長)



サウラソウの野生種(加茂市内植栽)



花菖蒲 '朝戸開'



江戸時代を代表するツツジ '本霧島'
(石川県珠洲市)

NEWS 2

SNS(ソーシャルネットワークサービス)を 活用した情報提供

当園では、Facebook(フェイスブック)ページおよびTwitter(ツイッター)の公式アカウントを運営し、開花やイベント、管理の裏話などの情報提供を行っています。

いずれも当園ホームページ(<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>)上からアクセスできるほか、ウェブ検索「新潟県立植物園」でヒットします。アカウントをお持ちの方は各サイト内で検索すればご覧いただけます。ぜひ購読(Twitterのフォロー、Facebookページへの「いいね!」)もよろしくお願いいたします。

今後も旬の情報をお伝えできるようつとめていきますので、ご注目ください!

(林 寛子)



Twitterにおける「つぶやき」



Facebookのページ



ミスオオバコ(*Ottelia alismoides*)
新潟県絶滅危惧II類

水辺に生育する
絶滅危惧植物



カキツバタ(*Iris laevigata*)
新潟県絶滅危惧II類



サギソウ(*Pecteilis radiata*)
新潟県絶滅危惧I類



ガガバタ(*Nymphoides indica*)
新潟県絶滅危惧II類



タノコアシ(*Penthorum chinense*)
新潟県絶滅危惧II類

NEWS 3

新潟県第2次レッドリスト

新潟県は、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保全を目的に、平成12年度に「レッドデータブックにいがた」を策定しました。その後10年以上が経過したため、平成21年度に新潟県野生生物保護対策検討会(植物分科会)を設置し、調査方法や掲載種等について検討を行い、第2次レッドリストを7月に発表しました。当園も検討会の構成員としてリスト作成に協力しました。

今回の検討会で、絶滅1種、野生絶滅2種、絶滅危惧I類96種、絶滅危惧II類286種、準絶滅危惧100種、地域個体群235種、合計720種が選定されました。「レッドデータブックにいがた」(2001)では、667種が選定されていたので、53種の増となっています。減少の原因として、観光開発や海岸浸食による生育地の減少や環境悪化、水湿地の減少、農地の改変や農薬使用、道路や河川の整備、園芸目的の採取があげられています。

当園では、絶滅危惧植物展による啓発活動や、日本植物園協会との連携により全国の植物園と連携して絶滅危惧植物の収集、保全を行っています。今後ますます植物園の保全施設としての重要性が増すと考えています。(倉重祐二)

新潟県第2次レッドリスト(PDF)

<http://www.pref.niigata.lg.jp/kankyokikaku/1356792269043.html>

NEWS 4

観賞温室第3室住宅内展示

博物館実習生展

平成26年8月26日(火)~9月7日(日)

当園では毎年博物館実習生を受け入れています。今年は、7名の実習生が企画から準備を行い、「しくみとカタチ大発見!タネ種たね展」を行いました。

動けない植物の種子散布についての解説や多様な形態を紹介する「旅する種」のコーナーと、タネを使った工作やさわってタネの種類を当てるクイズなどの「種であそぼう」のコーナーを設け、お子さんがタネを通じて植物により親しみ、興味を持ってもらえるような展示となりました。

植物園に集うアーティスト展

平成26年10月15日(水)~11月3日(月・祝)

植物の利用は、食物や薬用として重要なだけでなく、文学や絵画、生花、デザイン、花言葉や占いなど、芸術や娯楽的な文化的な利用も見逃せません。このような面こそ、まさにヒト独自の植物とのかかわりといえるものでしょう。

毎年大変好評をいただいている「植物園に集うアーティスト展」も今年で4回目を迎えました。今年も新たなアーティストが加わり、植物をモチーフとして自由な発想で制作した作品が会場を飾ります。また、5月に開催した「お散歩カメラ」教室の受講生の作品も展示します。展示を通して、植物の文化的な利用の姿をお楽しみいただければと思います。

(渡辺弘友)



博物館実習生による展示



アーティスト展に出品予定のHiroさんの切り絵

新潟の植物 メドハギ *Lespedeza cuneata*



日当たりの良い草地、荒地、道路の路肩など平地から低山地まで、ふつうに見られる在来の多年草。草丈が1mほどに達し、北海道から沖縄まで広く分布する。

身近なハギ属の仲間には在来のヤハズソウやヤマハギがある。メドハギは漢字表記で著萩または日処萩と書く。著(めど)は笠(めどき)と同じ意。

易で使用する笠竹(ぜいちく)にはメドハギやノコギリソウの茎などが使われていたが、後に竹が使われるようになった。メドハギやノコギリソウを含めた笠竹を笠と総称する。笠は「うらなう」とも読む。

メドハギは信濃川の堤防や植物園に通じる県道320号線の路肩で多く見かけるが、農道などのように定期的に刈り払いや除草剤の散布が行われる場所には少ないようだ。強靱な根を持ち、大株になると大人でも引き抜くのは困難だ。花期は8月下旬から10月。あまり目立たない花が葉腋に二つから四つ着く。しかし、良く見ると白から淡黄色の旗弁の中央に刷毛ではいたような鮮やかな紫が入って、控えめな美しさがある。

(田中良明)



友の会通信



友の会では、夏の旅行として7月26日、27日に志賀高原に行ったほか、植物園との共催で植物学講座や親子教室、夏休み親子教室の開催(計16回)、春の植物園まつり、夏の夜間開園への参加などを行いました。

春の旅行では、天候にも恵まれ、コマクサやニコウキスゲなどの植物を観察することができました。これらの旅行で観察した植物などはブログや植物園の観賞温室で友の会コーナーを作成し、展示しています。

夏休み親子教室では、「藍染ハンカチづくり」や「偏光万華鏡をつくる」は特に多数の参加者があり、準備も大変でしたが、多くの方々に楽しんでいただくことができました。

春の植物園まつりでは、会員が持ち寄った植物の販売や葉脈標本をつくる体験コーナーの設置を行いました。また、夏の夜間開園では、夜6時から光るスライムづくりの体験を行い、暗い中に光るスライムの独特な手触りを楽しんでもらうことができました。

友の会では、上記のような活動やその他、植物に関する様々な活動を行っています。ご興味のある方は是非ご加入ください。

新潟県立植物園 友の会 平成26年度 会員募集



新潟県立植物園友の会は、植物に興味があり、植物園の事業・活動に賛同する方の会です。平成26年度の会員を募集します。詳細は

友の会事務局(TEL.0250-24-6465)

までお問い合わせください。

年会費

- 個人会員 2,000円
- ファミリー会員 3,000円
- 賛助会員(一口) 10,000円
- 団体会員 5,000円

※4月より翌年3月まで。年度途中入会での割引はございません。

新潟県立植物園友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員 <わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています> ●有限会社齋藤不動産 ●株式会社アート

趣味の園芸セレクション ダイヤモンドソウのかおり



大文字草展



ダイヤモンドソウ'紅鶴'の花は甘く香る



'白王獅子'

10月5日(2010年)から展示をはじめた約30品種のダイヤモンドソウの花が満開を迎えています。今年の夏の暑さで、開花も少々遅れ気味でしたが、10月31日(日)まで大文字草展を開催しています(今年は100品種以上を10/7~11/3に展示予定)。

ダイヤモンドソウは、自然下でも葉や花の形に変異があり、20年数年前の「ガーデンライフ」には、赤や緑花、斑入り葉の株が掲載されています。当時は株分けで増やされていたため、ダイヤモンドソウやこれらの珍品が栽培されることは少なかったと思います。

最近、種苗店や量販店で売られるようになったのは、組織培養で大量に増殖できるようになったためです。新潟はダイヤモンドソウの日本有数の産地ですが、皆さん国内外の会社に増殖を委託しています。これにともなって、数多くの園芸品種がつくられて、大量に流通するようになりました。花の少ない秋に咲くかわいらしい花や、野趣に富んだ姿が人気の秋咲き山野草のニューフェイスですね。

花色は白色をはじめ赤、桃等と多彩で、花形もナデシコのような八重咲きなど変化に富んでいます。当園でも100品種以上

を保有していますが、実際は相当数の品種があるのだと思います。

タイトルのおいですが、花色や花形に関係なく、薄いのですが甘いにおいがする品種があります。'紅鶴'はよく香ります。中央の'白王獅子'はかぐのを忘れまして。においのしないものや変なおいものもあります。

お持ちの方は是非かいでみてください。(倉重祐二)

後から長い一言

ダイヤモンドソウの自生地は、水のしたたるような斜面や岩場です。生産現場では、温室に地下水を引いて、地面を湿地ようにして栽培しています。水切れや低湿度は枯死の原因になりますので、植え穴をあけた火山岩に植えつけて、石を水に浸して、水切れしないようにすると良いかもしれません。夏の暑い時には風通しを良くするのも効果的です。太平洋側では冬場の乾燥にも注意が必要です。

※記事は、みんなの趣味の園芸サイト内、「植物園日記」2010年10月21日掲載。本文中の日付は掲載時ものです。